M220904

「恐れることはない」
ルカ５：１－１１

神田 明美

（導入）

皆さん、おはようございます。もう今日が９月の第一週目の日曜日ですね。今年も残すところ今月含めて、あと４月となりました。９月は皆さんも教会ごよみでご存知のように、献身月間です。今日共に見ていく箇所を通して、今一度、献身、召し、そして私たちを招いてくださるイエス様について思い巡らしていきたいと思います。では、本日の聖書箇所をお読みします。新約聖書ルカの福音書５：１－１１です。では、お読みします。

ルカ５：１－１１
１さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸辺に立って、
２岸辺に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。
３イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。
４話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」
５すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましょう。」
６そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。
７そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱいに引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。
８これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」
９彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。
１０シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」
１１彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。

（本論）

〇実はこれが初めての再会でないイエス様とペテロたち

今日の箇所は、主にペテロが沢山出てきますが、ペテロ、ヤコブ、ヨハネたちがイエス様から弟子の招きを受ける箇所です。この箇所のちょっと前には、たくさんの人の病を癒し、悪霊を追い出されるイエス様と、自分達にとって特となるイエス様が自分たちから離れて他のところに行かないよう必死なカペナウムの群衆が出てきます。しかし、５章に出てくる群衆たちは、１節にカペナウムの人たち同様イエス様に押し迫って来たとありますが、その目的が違います。

５：１「さて、群衆が神のことばを聞こうとして」

そして、続く登場人物はペテロたち漁師ですが、２節にはこのようにあります。

５：２「岸辺に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。」

１節のみことばを通して、私は読んでいて、「神のことば」を聞こうと押し迫ってきてる町の人たちとは真逆に、イエス様の話を聞くよりも、今日の仕事の片付けや明日の準備を済ませ、さっさと家に帰ろうとするペテロたちが浮かびました。しかし、そんな彼らをイエス様は、帰らせはしません。

５：３イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。

イエス様は、ペテロの舟に乗り、舟の上から集まってきた群衆たちに「神のことば」を話し始められますが、横で網を手入れしているペテロも聞くことができるように話されるんです。

それにしても、皆さんは、３節を読んでいて、イエス様とてもすんなりとシモンの舟に乗るなぁと思いませんか？そうなんです。ペテロとイエス様は、この時が初対面だったのではなく、すでに面識があったんです。

◯ペテロとイエス様の最初の出会いと召し
では、イエス様とペテロの最初の出会いはどんなものだったのか、一緒に見てみましょう。

ヨハネの福音書１：３５－４２
３５その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともに立っていた。
３６そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。
３７二人の弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。
３８イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ（訳すと、先生）、どこにお泊まりですか。」
３９イエスは彼らに言われた。「来なさい。そうすれば分かります。」そこで、彼らはついて行って、イエスが泊まっておられるところを見た。そしてその日、イエスのもとにとどまった。時はおよそ第十の時であった。
４０ヨハネから聞いてイエスについて行った二人のうちの一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。
４１彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と言った。
４２彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンを見つめて言われた。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ（言い換えれば、ペテロ）と呼ばれます。」

この箇所が最初の出会いの場面です。まず著者のヨハネとペテロと弟のアンデレはバプテスマのヨハネの弟子というところから始まります。そして、師匠のヨハネがイエス様を見て、「見よ、神の子羊」ということを聞いて、ゼベダイの子ヨハネとアンデレはすぐさま、今度はイエス様についていって、イエス様の弟子となります。本当にこの二人はメシア・救い主を心から求めていたことが伝わって来ます。

でも、この段階では、イエス様とヨハネ・アンデレの関係はまだ人と人という関係、二人にとってイエス様はまだラビ以上の存在ではなかったことが、38 節で彼らがイエス様のことを「ラビ、先生」と呼んでいることから分かります。でも 39 節にあるように、イエス様からの「来なさい。そうすれば分かります。」という招きに答えてついていき、ここが重要ですが、「イエスのもとにとどまった」ことによって、ここから、彼らとイエス様の先生と弟子という関係に変化が起こるわけです。イエス様のもとにとどまって、交わりを通して彼らはイエス様が、メシア、救い主であるということを知っていくんですね。

どう変化したでしょうか？41 節でアンデレは、まず自分の兄ペテロを見つけて、イエス様のことをなんと紹介しているでしょうか？「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と言って紹介します。それだけでなく、兄もイエス様の元に連れていくんですね。先生と弟子という関係が、メシアと弟子という特別な関係に変わっているのが見えますよね。

私たちにも、このようなイエス様との関係の変化がそれぞれにあったと思います。私たちも最初はイエス様と、人と人・なんかすごい方という関係から、人と神様、救い主、私の主という特別な関係に入れられるという恵みを体験しまし、体験中の方も、そしてこれからの方もいらっしゃると思います。

そして、アンデレは伝道のプロといいますか、イエス様を紹介するプロですね。本当にこれが、伝道だなと思わされますし、イエス様の弟子となるということは、イエス様に留まることなんだということを教えてくれますね。ここでペテロとイエス様は初めて会い、そして、イエス様にペテロは、「あなたはケファ、ペテロと呼ばれます」と言われるんですね。名前が変えられただけの場面かもしれないですが、私はここをイエス様からペテロへの一度目の召しと考えます。でも、イエス様とペテロの出会いは一旦ここで終わってしまいます。

◯イエス様からの二度目の召し

イエス様との再会、弟子への二度目の召しは、マルコ１:１６－２０です。マタイ４:１８－２２にも同じことが書かれていますが、今日はマルコの方を見たいと思います。

マルコ１：１６－２０

１６イエスはガリラヤ湖のほとりを通り、シモンとシモンの兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。
１７イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」
１８すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。
１９また少し先に行き、ゼベダイの子ヤコブと、その兄弟ヨハネをご覧になった。彼らは舟の中で網を繕っていた。
２０イエスはすぐに彼らをお呼びになった。すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちとともに舟に残して、イエスの後について行った。

ヨハネとペテロとアンデレは一度イエス様の弟子となったのに、どういうわけか、またこれまでの漁師の生活に戻ってしまっています。聖書には書かれていないので彼らとイエス様の間に何があったのかは分かりません。でも、彼らをご自分の弟子とすることを諦めてないイエス様がいます。

イエス様は、どういうわけか自分から離れ、漁師に、前の生活に戻ってしまった彼らのところへと出向き、そして招かれます。１７節「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」そして、これを聞いたペテロとアンデレはまた、すぐに網を捨てて、イエス様に従いますし、その後、ヤコブとヨハネも舟に父や仲間を残してついていきます。もう一度、イエス様の弟子としての歩みが始まるわけです。

でも、なんと彼らのイエス様の弟子生活も長く続いてないことが、今日の箇所、ルカ５章から発覚してしまいます。イエス様から召され、すぐに従ったけど…また何があったのか、ルカ５：１を見ると、彼らは元の生活に戻ってしまっているんです。イエス様が病を癒したり、悪霊を追い出したりと、いろんな奇跡はそばで見て来ましたが、ペテロなんて自分の姑の熱（ルカ4:３８－３９）も癒してもらったけど、元の漁師の生活に戻ってしまいます。自分たちの期待していたもの、自分の理想の「メシア」像がイエス様に感じられなかったのか、彼らは戻ってしまうんです。

ペテロたちが期待していた「メシア」救い主とは、イスラエルを今すぐローマの支配から救い、ダビデやソロモンの時のような栄華を取り戻してくれる、言葉通り、現実的な華やかな救い主だったのではないかなと想像します。

でもこの時のイエス様はどうだったかというと、イザヤ５３：２にはこのように書かれています。
イザヤ５３：２
彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。
彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。

この時点では、まだペテロにとって、イエス様はすごい方ではあるけど、まだラビ以上と慣れていなかったのではと思いました。イスカリオテのユダがイエス様を裏切って捕まえるときも、ユダの口づけの合図で、兵士たちはイエス様が誰かを知り、捕まえましたよね。なので、イザヤにあるように、私たちが慕うような見栄えもなく、自分達の期待とも離れていたので、また離れてしまったのではないかなと思うんです。

◯イエス様からの三度目の召し
しかし、イエス様もこんなことで彼らを諦める方ではないんですね。またまた、イエス様はペテロたちのところに行くんです。そして、もうペテロが逃げられないように、ペテロの舟に一緒に乗ります。そして、群衆に御言葉を語り始められますが、隣では？もちろん網をいじりながらもペテロも強制的に御言葉が聞こえてくる状況です。仕方なく、また何度も行ったり来たりすることを申し訳なく思いながら隣で聞いていたかもしれません。

そして、御言葉を語り終えてから、「ペテロ、舟を貸してくれてありがとう。もう一度いうが、あなたを人間をとる漁師にしてあげよう」と言って終わる終わり方もあったと思いますが、イエス様はもう少しペテロとの時間を持たれるんですね。ペテロを帰らせません。夜通し働いて疲れていて、早く明日の準備を済ませて帰って休みたいペテロ、なんと言ってもプロの漁師のペテロにイエス様は非常識なことを言ってくるんです。そして、それにペテロは素直に答えます。４節５節。

ルカ５：４－５
４話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」
５すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましょう。」

ペテロは貧しくない家庭です。なので、今日一匹も魚がとれなかったからといって、今日明日と生活が困るわけでもなく、また明日とれればいいという感じだったと思うんです。またゲネサレ湖はガリラヤ湖の西側のところですが、ガリラヤ湖は魚が豊富で、今日でも漁獲量は多いところだそうです。

なので、「一匹でもとらなければ」というような藁にもすがる思いでイエス様の言葉に従ったわけでもなかったでしょう。ペテロの言った「おことばですので」には、今日は夜通し働いて疲れているのに、明日の準備もまだ終わってない。その網をまた使わなきゃいけないなんて。そして漁師の生活は昼夜逆転だから眠いのに。今日はもうとれないことを早く証明して帰ろう。というような半信半疑というか、自分の正しさの証明という感じだったのではないかなと想像します。

「先生、夜通し働いてこれです。言いますけど、そうすべき理由もなく、そうしたい気分でもないですし、そうしたところできっと網はまたカラだと思いますけど。イエス様、いっても私プロの漁師ですよ。イエス様は先生で、元大工ですよね。私の方が、ガリラヤ湖、そして漁には詳しいと思います。」というような思いもあったのではないかなと思うんです。

私にもイエス様や神様に対してこのように思ってしまうことがあるなと思わされました。主が今私の置かれた状況と全く合わなそうなことを要求される時。信じなさいと言われてもなかなか信じられない時。できる気も全く起きず、うまく行かなそうで、また行う力もないのに、しなさいと言われる時。頑張ってダメだったのに、またやりなさいと言われる時。こんな時、皆さんはイエス様、また神様にどのようなことを思い、どう返事しますか？

ペテロはイエス様に言うことはいって、でも従って網をおろします。そしたらどうなったでしょうか？6－７節
６そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。
７そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱいに引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。

〇奇跡後のペテロ
きっとまたカラに違いないと思っていたペテロの予想とは裏腹に、網が破れそうなほど魚がとれました。イスラエルの「イガル・アロン博物館」というところに、この当時使われていただろうと言われている舟が展示してあるそうです。1983 年―1987 年に、イスラエルをひどい干ばつが襲い、ガリラヤ湖の水位も下がり、1986 年に湖の底でこの舟の骨組みが発見され、少し修復されたそうです。

舟の大きさは、長さ８.２m、幅２.３m、高さが１.２m 程で、漁の道具などを何も乗せなかったら、大人 MAX１５人乗れる、５００－６００kg ぐらいは耐えられる舟だそうです。

そして、ここで良くとれる魚が、長さ４０cm、重さ１.５kg のセント・ピーターフィッシュ。魚が約１.5kg で、二艘の舟が沈みそうなほどなので、８００匹を越えるほどだったんですかね？魚８００匹って想像しただけでも凄まじい光景ですよね。

ここから思わされたことは、一つは、「魚をたくさんつかまえたことも奇跡だけど、夜通し１匹もとれなかったこともイエス様の摂理、ご計画」ということです。私も、沢山とれることだけ、うまくいくことだけ、計画通り進むことだけを主の御業と思ってしまいがちです。しかし、私たちの人生には、とれず、失敗だと、うまくいかないと思うことにも主の摂理、ご計画・意図があり、主の許しのもと起きてるということを改めて思わされました。

そして二つ目は、「ペテロはプロの漁師で、イエス様は先生で、元大工。漁においてはペテロの方が上と思っちゃうけど、それは大きな間違い」ということです。ガリラヤ湖も漁の仕事も、魚のことも全てイエス様の統治、ご支配の中にある。
イエス様のご支配、働きの領域は私たちをはるかに越える。主が働けない領域はどこにもなく、主よりも私の方が詳しい領域なんてどこにもないということです。

◯イエス様の足元にひれ伏すペテロ
こんなことを体験したペテロは、イエス様の足元にひれ伏してこう言います。８節。
８これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」

この言葉ちょっと変じゃないですか？漁師が魚をたくさんとれたら、自分の予想をとてつもなく超えていたからと言って、「離れてください」と普通言うでしょうか？カペナウムの人たちはどうだったでしょうか？奇跡を行うことのできるイエス様が自分たちのそばにずっといれば得なことだらけだと思い、離れないでと言っていましたよね。

ここで普通なら「イエス様、私たちとずっと一緒にいてください。」とか言うのではないでしょうか？でもペテロは今、自分のメシア像とは違い、慕うような見栄えもないと思っていたイエス様の足元にひれ伏し、「私から離れてください」と言っています。そして注目したいのは、さっきまで「先生」と呼んでいたのが、「主よ」に変わり、離れてほしい理由を「私は罪深い人間だから」と言っているところです。この変化、世の基準では出てこないこの応答はまさに、ペテロが今この瞬間神の国に生かされ始めているということ、神の国での反応なんだと思うんです。

そして、９節に「驚いた」とありますが、このギリシャ語には「驚愕」だけでなく「麻痺」という意味もあり、またイエス様が「恐れることはない」と言っていることからも分かるように、ペテロたちは驚いただけでなく、イエス様を恐れているのがわかります。

自分の想像をはるかに超える方に出会い、神の臨在を体験した者がする告白です。イエス様を知りなおし、自分の目の前にいる方はまさしくメシアで、絶対主権者。光であられる方であることを知識だけでなく心から体験したわけです。その光に自分の隅々まで照らされ、隠していた、うまく隠せていた罪の問題もあらわにされ、自分の罪深さ、小ささ、イエス様を前に自分は取るに足らない者であることを悟り、今できることと言ったら、自分はもう驚

きと恐れで動ける状態でないので、イエス様に離れてくださいと、自分のあるがままを言ったのではないでしょうか。

　そんな彼がいう通り、罪深いペテロの全てを知りつつも、イエス様はそれでも、ペテロのことをあきらめず、何度だって招いてくださり、彼をイエス様が願われている姿へと、完成へと導いてくださっています。イエス様のもとに留まり続けられないペテロのために、イエス様から近づいてくださり、イエス様が留まってくださり、ペテロと共に歩み続けています。

　ペテロには、「恐れることはない。わたしはあなたを罰したり、滅ぼすためにきたのではない。わたしはあなたに使命を与えるために何度も招いたのだ。これまで自分自身と家族のために生きてきたと思うが、これからはわたしのために生きよ。あなたはこれからこの世を救うわたしの働きに、チームに、加わるのだ。わたしは何度だってあなたを呼ぶ。」とイエス様からの三度目の招きの言葉が聞こえたんじゃないかと想像します。

　今日は、ペテロとイエス様の関係が、先生と弟子から、メシアと弟子に変わっていくところを共に見ました。それだけでなく、人生の優先順位すらも変わり始めている姿も見ました。そのきっかけはなんだったでしょうか？奇跡でしょうか？奇跡ももちろんあったと思います。でもそれだけではないと思うんです。

　それまでも彼はイエス様のたくさんの奇跡を見てきました。それでも何度も彼はイエス様から離れ、漁師、それまでの生活に戻ったわけです。私は、ペテロが舟の上で、イエス様のすぐそばで御言葉を聞き、そしてその後に語られた言葉を聞き、その言葉が目の前で実現することを体験したことによって、神のことばには力があるという体験がきっかけとなったと思うんです。
　まさにローマ１０：１７
信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。

　とある通りのことがペテロに起こったわけです。奇跡よりも神のことば、御言葉に力があります。主は、私たちが御言葉を信じ、従うことができるよう、助け導いてくださる方なんです。

（結論）
　今日、みなさんと覚えたいことは、何よりもペテロたちを最後まで弟子とすることを諦めなかったイエス様がおられたということです。どれほどかと言いますと、ペテロは、イエス様に三度招きを受け、イエス様が十字架にかかられるとき、三度裏切ってしまいます。しかし、その後ヨハネ２１章に書かれている通り、もう一度三度ペテロを招いてくださるんです。なんと、何度も招きを受けたガリラヤ湖で。

　そのイエス様が、今は私たちのことを諦めず愛し、招き続けてくださっている。御言葉を語り、従う力を与え続けてくださり、私たちにも「恐れることはない」と優しく語りかけてくださっています。